

Ⅲ トピックス：認知症ケア施設の 屋外スペース改造の意義

1. 高齢者に配慮した街路デザイン

WHO は活動的で、健康な加齢を促すために安全な緑の屋外空間を提供する、「高齢者に優しい都市イニシアティブ：Age Friendly Cities initiative, 2007年」を提唱している。地域の環境づくりの指針となる「全世界にわたる高齢者にやさしい都市ガイド：Global Age-friendly Cities : A Guide, 2007年」を作成し、「第5章 屋外スペースと建物」の中で、①楽しく清潔な環境、②緑地の重要さ、③随所に設ける腰掛、④高齢者にやさしい舗装、⑤歩行者に安全な交差点、⑥アクセスのし易さ、⑦危なくない環境、⑧歩行路と周回路、⑨高齢者にやさしい建物について解説している。緑地の重要さについて、緑地を持つことは最も普通に述べられる高齢者に優しい配慮の1つであるが、多くの都市で高齢者にとって緑地が使いにくい、管理が不十分、安全への不安、他の活動的な利用者との共用といった障壁がある、と指摘している。

これらの屋外空間に関する解説は、「屋外へ導く包括的デザイン：Inclusive Design for Getting Outdoors : IDGO, 2007年」をもとに作成されている。IDGOは英国のEdinburgh, Salford, Warwick および Heriot-Watt 大学の研究センターによる研究プロジェクトで、高齢者の生活の質

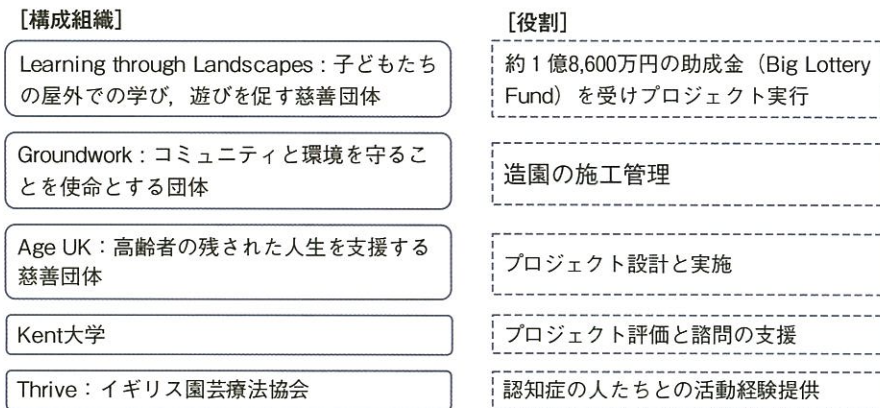


図10 プロジェクトの組織体制

(QOL) にインパクトを与える可能性、方法、達成に向けて何が障壁となっているかを明らかにする目的で、高齢者4,350人の協力を得て10年間(2003-2013年)におよぶ調査研究を実施した。2013年に最終の改訂版、「公園・公共オープンスペースへの生涯にわたるアクセス: Lifelong Access to Parks and Public Open Spaces」と「高齢者に配慮した街路デザイン: The Design of Streets with Older People in Mind」の2つが公表されている。

「高齢者に配慮した街路デザイン」では、腰を下ろす設備、バス停と待合所、触感のある舗装、歩行者の交差点、隣り合う分割利用(自転車と歩行者)、ストリートアート、街路緑化など13章からなる。

街路緑化では、緑地の維持管理は利用者の関心事であり、ハンギングバスケットはごみ箱となりにくいという理由から好まれる。一群のプランタ、高い花壇ないし類似のものを設置し、近くにゴミ箱を配置することを考慮する。植栽のそばに椅子を備えることは高齢者に好まれる(立っているよりもむしろ座って植物を楽しむ機会となる)。さらに、植栽されている場所は人々の間に会話を交わすことを作り出すため、座って話す機会は歓迎される。できるだけ椅子のそばに植物を配置することを勧める。利用者は感覚を刺激する植物を楽しんでいる。一方、管理者は維持管理を最小限にしようと考え、必ずしもそのような配慮は優先されていない。感覚を刺激する植物はできるだけ植栽することを勧める。

2. 認知症に配慮した庭園プロジェクト

アルツハイマー協会によれば、英国には認知症の人たちがおよそ80万人いる。65歳以上の人たちの3人に1人は認知症を発症し、認知症の人たちの3分の2は女性である。3分の1の人たちはケアホームで生活し、その80%は認知症ないし重篤な記憶障害の状態にある。認知症の人たちの数は、

平均余命の伸びと人口の高齢化に伴い年々増加しつつある。

この見直しに対応して、前掲の高齢者に優しい都市イニシアティブが打ち出された訳であるが、コミュニティの快適さや屋外スペースに変化をもたらすには多くの障壁が残っている。それは、環境が高齢者や認知症の人たちにもたらす恩恵に対する配慮の欠如、とくに居住施設やデイケア施設において屋外スペースの利用を高める支援の欠如の結果である。大部分の認知症ケア施設は屋外スペースを持っているという事実にもかかわらず、それらはほとんど利用されず、多くのサービス提供者は屋外スペースが安全でなく、信頼性に欠け、その場所をうまく利用する情報源を持っていないと感じている。

そこで、Learning through Landscapes (LTL) は、2016年から認知症にやさしい施設の屋外スペースの改善と利用を支援するプロジェクトに取り組んでいる。このプロジェクトは、5つの組織の協働により進められ、英国内の30カ所のケア施設で屋外スペースの改造を実現しようとするものである(図10)。

プロジェクトは次の4つの成果達成をめざしている。

①認知症の人たちが屋外スペースで意味のある活動に従事して過ごす時間を増やす、②認知症ケア施設の屋外スペースの機能を改善する(屋外スペース利用の多様化を図る)、③認知症とともに生活する人たちの健康と満足できる生活状態に直接確信のあるインパクトを与える、④屋外スペース利用のために、サービス利用者にとってより多くの良好な機会を作り出すことに必要な訓練と資源をサービス提供者に装備させる。各成果は、どのように変化をもたらすか、どんな変化が見られるか、いつ変化が達成されるか、など指標に基づき測定される。LTLはプロジェクトへの支援を得るためウェブサイト(<http://dementiagarden.org.uk/>)を開設している。

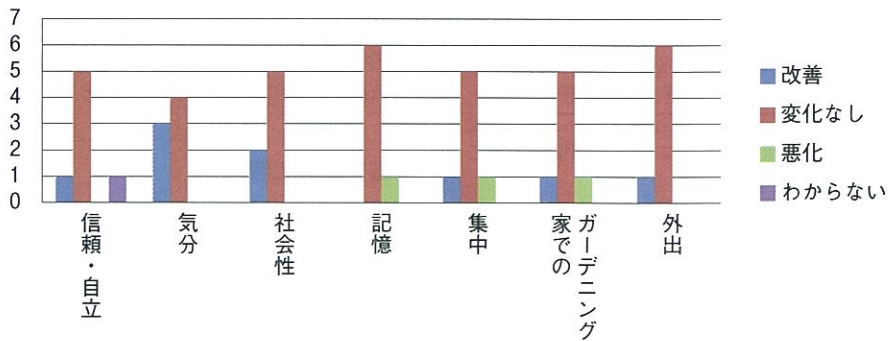


図11 介護者の観察結果（12か月後）

3. Thrive の役割

Thrive（イギリス園芸療法協会）は、英国の認知症ケア施設に、より使いやすい、励ましとなる、意味のある活動を促す庭や屋外スペースを造る先駆的プロジェクトの中心的役割を担う。認知症ケア施設の屋外に創造的な環境を整えることにより、自分たちの健康や満足すべき生活状態を改善するために、居住者はスペースをより頻繁に利用するよう促される。スタッフもまた新しい屋外スペースを最適に利用する方法についてガイダンスを得られ、認知症ケア部門の人たちにとって、認知症を発症して生活している人たちにもたらされる価値のあるガーデニングに関する資源となる。

Thrive はこれまで認知症を発症して生活している人たちにとって、ガーデニングの価値を示す映像を製作し、さらに一般大衆向けにポッドキャストを作成・提供している。

英国で認知症を発症して生活する80万人の人たちの大部分は、もともと仕事ないし自身の余暇時間として屋外での十分な体験を有しているが、それらは認知症がもたらす制約の結果として失われている。自然環境の刺激を受けて、健康や満足すべき生活状態の恩恵が少しずつ知られるようになっているとはいえ、大部分の認知症ケア施設の屋外スペースはほとんど利用されず、整然として、管理しやすく、高度に手入れされ、植物が育ち、あるいは野生生物を惹きつける自然な区画をもたない場合が多い。

Thrive は2011年に「構造化されたガーデニングプログラムは若年性認知症における満足できる生活状態を改善するか？」と題する研究を行っている。若年性認知症（Young onset dementia：YOD）は英国で65歳以下の人たちのおよそ1,500人に1人に影響を及ぼし、雇用や自活の喪失、精神的苦悩の増加につながっている。

プロジェクトは2009年5月12日から2010年5月10日まで実施。参加者は1週間に2時間、46セッションに参加。12名が参加（男性4名と女性8

名）、そのうち、9名はアルツハイマー病、1名は前頭側頭型認知症、1名はアルツハイマー型／血管性認知症、1名はレビー小体型認知症と診断。平均年齢は58.6歳（年齢幅43～65歳）。参加者は社会生活に適合するように、グループミーティングに加わり、各人の能力に照準をおいた1時間の構造化されたガーデニング作業に従事する。

プロジェクト終了時の所見では、介護者によるガーデニンググループにどんな違いが見られたかについて、7項目に対する観察結果が示されている。信頼・自立（1名）、気分（3名）、社会性（2名）、集中（1名）、家でのガーデニング（1名）、外出（1名）について改善が見られた（図11）。小規模グループ活動は、参加者や介護者にとって不安の低減につながる、と報告されている。

この先導的研究から、構造化されたガーデニングは、YODの人たちの満足すべき生活状態、認知、気分に関与するインパクトを有する。とくに関心を向けるべきことは、参加者の満足すべき生活状態と認知の関係であり、この研究が提示する、満足すべき生活状態は認知低下の存在にもかかわらず維持することができるという点である。今後の研究は、YODの人たちの経験およびグループへの帰属と、意味のある職業の開発との関係に焦点をあて、潜在的な孤立や自己放棄の感情の変化を探求することにある。

参考文献

- 1) WHO (2007) : Global Age-friendly Cities: A Guide, pdf ファイル
- 2) Inclusive Design for Getting Outdoors : Lifelong Access to Parks and Public Open Spaces, http://www.idgo.ac.uk/design_guidance/index.htm
- 3) Learning through Landscapes : Developing dementia friendly outdoor spaces, <http://dementiagarden.org.uk/about/>
- 4) Trive (2016) : Thrive part of £1.3 million project to transform gardens in dementia care settings, <http://www.thrive.org.uk/news/news/news-436.aspx>
- 5) Trive (2011) : Evidence, messages, learning, pdf ファイル